

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- ① 学び合う姿勢を大切に、問題解決的な学習や言語活動を積極的に取り入れ、思考力・判断力・表現力を高めるような指導方法の工夫・改善を図った授業を推進する。
- ② 数学・理科・英語では指導方法工夫改善加配教員を活用した習熟度別・少人数授業を行い、さらに英語では英語指導助手の活用をすることにより、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るとともに、国・都・市の学力調査の結果を踏まえ、生徒の実態に応じた指導の充実を目指す。
- ③ 運動会や合唱コンクール、作品展などの学校行事との関連を図った指導計画を作成し、生徒の関心・意欲の向上を図りながら、自己表現の力を深化・発展させる。
- ④ 保健体育では、普通救命講習会やダンスの授業を関係機関や大学の協力を得ながら実施し、家庭科では栄養士とのティームティーチングや講師による食育の授業を展開していく。

イ 道徳

- ① 道徳教育推進教師を中心として、教育活動全体と道徳の時間との関連付けを図りながら、「命の教育」を推進し、自他の生命を大切にし、他を思いやる心を育てる。
- ② 赤ちゃんのチカラプロジェクトや職場訪問などの体験的な活動の機会を増やし、道徳的実践力を高めるとともに、道徳授業地区公開講座や国立ハンセン病資料館の方の講演会を実施するなど、保護者や地域社会と連携した活動を推進する。

ウ 総合的な学習の時間

- ① 「職業や自己の将来に関する学習」・「地域や日本の伝統文化の学習」・「生活における能力向上に関する学習」の3つの内容を設定する。
進路の学習では、キャリア教育の視点を踏まえたねらいを設定し、職業調べや職場体験、上級学校訪問を通して、自己を理解し将来の生き方を考える学習活動を展開していく。地域や日本の伝統文化の学習では、清瀬にゆかりのある「俳句」を活用した学習や、校外学習や修学旅行と関連付けるとともに、オリ・パラ教育も視野に入れて展開していく。生活力向上の学習では、福祉・健康・人権・国際理解に関する学習と関連付けて展開し、学んだことを自己の生き方や生活に生かしていこうとする態度を育てる。
- ② 生徒に身近で興味あるテーマを設定することにより、学習や課題に対して自ら進んで探求したり協議することを通して、課題を解決していく能力を育てる。また、レポート等の紙面発表、口頭発表、プレゼンテーションソフトを用いた発表と、発達段階に応じた指導計画を作成することにより、表現力、発表力を育成する。さらに、インターネットや学校図書館を活用することにより、情報収集・活用能力の伸長を図る。

エ 特別活動

- ① 意図的・計画的な学級・学年活動をおこない、小集団における自己の役割を遂行できる力を育成するとともに、生徒の自治的活動能力を高める。
- ② 運動会や合唱コンクール等の学校行事や生徒会活動を通して、生徒一人一人の活躍する場を大切にし、成就感や充実感を味わわせながら、集団への所属感を深めさせる。
- ③ 生徒会主催のアースデーや募金活動、落ち葉はき清掃などの奉仕活動やボランティア活動の充実を目指す。

オ 読書活動

図書館運営支援員の活用を図りながら、生徒の自主的・主体的な読書活動を推進し、情操の育成と言語に関する能力の向上を図る。